

# 大阪府退教情報

2024年3月31日

発行第53号

発行者:大阪府退職教職員連絡協議会

代表:林誠子

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津  
町7-11 大阪教組気付

電話 06-6762-7999

## 「ほしいものは、平和ですね。いらぬのは戦争です」

つい先日のあるテレビ番組のこと。「黒柳さん、あなたがほしいものはなにですか？」そう尋ねられた黒柳徹子さんは「ほしいものって特にないけど」と言いながら、「そうね、ほしいものは平和ですね。いらぬのは戦争です」ときっぱりと。「ほしいものは？」と聞かれて私はあれこれ何が欲しいかとモノを思い浮かべていたことが恥ずかしくてたまらなかった。

みなさんは何が欲しいですか？平和人権センターなど3団体による実行委員会主催の下記集會に府退教も50人以上も参加し、集會終了後は扇町公園までのデモに行進たくさんの方が参加した。(筆者は体調不良で集會のみ参加)

## 3.30 (土) とめよう! 戦争への道めざそうアジアの平和 2024春 関西のつどい

会場のエルシアターには、500人以上の参加があった。ガザへのイスラエルの無差別爆撃・ウクライナへのロシアによる2年にわたる侵攻。今私たちが生きている世界の2か所で毎日多数の子どもや女性がそして若い兵士たちの命が奪われている。そんな時期の私たちの進む道の選択を考える集會であった。

一つ目の講演は、**清末愛沙さん**(室蘭工業大学大学院教授、憲法学者。アフガニスタンフェミニスト団体RAWAと連帯する会共同代表、北海道パレスチナ医療奉仕団メンバーでもあり現地にもたびたび赴く行動的学者である。) 演題:「ガザとアフガニスタンで起きていること、怒ったこと」

アフガンの女性たちの抵抗運動は、都市部の高学歴女性を中心とするエリート女性のための活動ではなく、あらゆる階層・民族に参加を呼びかけ、<生き延びる>という抵抗であり、<したたか>で継続性を追求するものである。そのスローガンは、「パン」「教育」「就労」「自由」である。世界がアフガンのことを忘れても、アフガンRAWAの女性たちは今なお人権を求め闘う存在であり続けている。男性集団が女性集団を保護も支配もするというジェンダーアパルトヘイトへのRAWAとの連帯行動が、パレスチナ・ガザ地区に対するイスラエルによる民族アパルトヘイトへの清末教授の挑戦につながっている。

ガザ地区を壁で包囲し、水・電気の支配・移動制限などの分断・隔離という暴力で支配し続けてきた事実は可視化されにくい。昨年10月のハマスの攻撃を口実に今ジェノサイドとしか言いようのない無差別軍事攻撃が続いているが、見えにくいアパルトヘイト支配にも目を向け、日本国憲法・国際法を駆使して国際社会は、軍事攻撃は言うまでもなく、分断隔離をやめさせる選択へと向かわなければならない。私たちは、そんな日本の政権を求めねばならない。小さな幸せとそれを支える尊厳の確保のために。

二つ目の講演は、**城村典史さん**(奄美ブロック護憲平和ホール事務局長)。世界自然遺産の奄美大島で進む軍事要塞化の現状を報告された。この3月にも日米軍事訓練・米軍機からの300名の降下訓練。雄叫びを上げながらの日米野戦訓練も。島は戦場のようだと感じた。

(写真:稲岡美奈子、文責:林誠子)



### たかが名簿、されど名簿…その時、学校の風景が変わっていった

東大阪市の幼・小・中で男女混合名簿が導入されて30年以上経過した。導入以前は男女別名簿で当たり前のように男子優先の名簿で出席をとっていた。男女混合名簿になり、今まで「〇〇さん〇〇くん」と呼んでいたことにハッとしたことを思い出す。わたしは自分自身が男女を区別していたことに気づき、子どもたちに理由を話して「〇〇さん」と呼ぶことにした。しかし導入当時は、男女混合名簿は教育現場ですんなりと受け入れられたわけではない。慣習的に使っていた男女別の方が使いやすい、健康診断や身体測定の際に作業が煩雑になる等意見は出たが、人権教育の視点から考えてみると男子優先の名簿を使い続けることがどうなのかという議論になり男女混合名簿の取り組みが始まった。

小学校の入学式、新入生のクラス分け名簿が同一色のマジックで書かれた。机、靴箱、ロッカーの名前シールの貼り方も変わった。そのほかにも運動場や体育館での並び方が男女混合の二列になり、列のこぼこがなくなった。健康診断や身体測定も下着一枚から体操服を着用するようになり、子どもたちは大喜びした。こうして少しずつではあるが学校の風景が変わっていった。

教科書についても現職の時から女性部で学習を続けてきた。子どもたちが学ぶ教科書こそ、ジェンダー平等の視点を忘れてはならないと思う。算数の文章題で男子の呼称が「〇〇さん」に変わったと知った時は、嬉しい驚きだった。小さい頃から教育が与える影響は大きい。だからこそ「教育が重要」と言える。

### 一方、今の社会に目を向けてみると、ジェンダー平等はまだまだ遠い

- ・女性議員は10%以下
- ・男女間賃金格差は年間100万円以上
- ・働く女性の半数が非正規雇用、男性の約2.5倍

「ジェンダーギャップ指数 2023年」によると日本は146カ国中125位。社会の風景はなかなか変わらないが全ての人が生きやすい社会になるために皆さんと一緒にジェンダー平等の取り組みを進めていきたい。

### 企画する人が多様になると、参加者も多様になっていく

府退教は、女性参画30%以上の役員体制が2022年度より始まった。役員会では討議を重ねて様々なことに取り組んだ。いくつものことが女性の発案で企画されることも増えた。「府退教情報」の発信と内容の充実、「郷土発見ツアー」でのワイナリー見学とワインで懇親の開催等、単会の方々にご協力いただき今後も継続していけたらと思う。「ワインも料理も美味しかったよ」「来てよかったです」優しい言葉に感謝した1日だった。夫婦参加・女性の参加ありで和やかだった。(文責 谷口 啓子)



国際女性デーに特別の行事をすることはできなかつたが、現在の役員が40年余り前から取り組んできたことを振り返ってもらった。そこには今日の府退教の変化を生み出す力が確かに貯えられていた。うれしい。それが組合を支えていたのだ。(林 誠子)